

東日本大震災現地NPO応援基金

『しんきんの絆』復興応援プロジェクト

第2回助成事業報告集





プロジェクト趣旨

『しんきんの絆』復興応援プロジェクトは、東日本大震災により被災した地域の復興のために、民間非営利組織が行う草の根の日常生活の再建や、地域コミュニティ・文化の再生活動など「地域の絆」をつなぐ活動を応援するプロジェクトです。

実施にあたっては平成26年に信用金庫が募集した「『しんきんの絆』復興応援定期積金」の募集総額の0.25%相当額について、信金中央金庫を通して、日本NPOセンターの「東日本大震災現地NPO応援基金(特定助成)」へ寄付を行っており、その寄付金をもとに同基金の特定助成として民間非営利団体への助成を行っています。



第2回助成概要

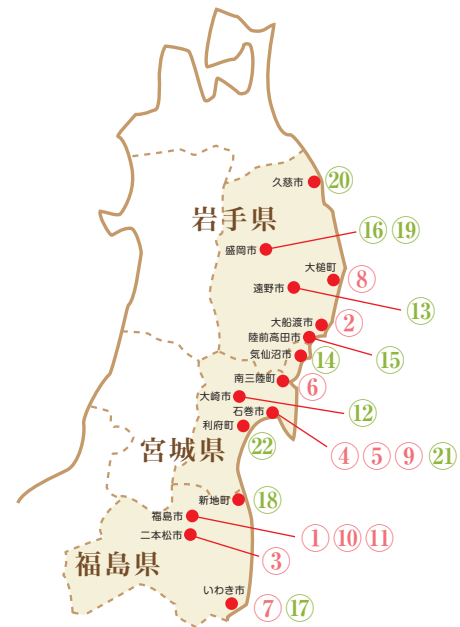
■ 助成期間：2015年10月～2016年9月

■ 助成件数：22団体

(一般公募枠：11団体
信用金庫推薦枠：11団体)

■ 助成金額：6,740万円

(一般公募枠：3,556万円
信用金庫推薦枠：3,184万円)



第2回助成団体

■ 日常生活の再建事業

	団体名	事業名	所在地
①	特定非営利活動法人 チームふくしま	福島ひまわり里親プロジェクト	福島県福島市
②	特定非営利活動法人 こそだてシップ	ママサロンこそだてシップ	岩手県大船渡市
③	特定非営利活動法人 まちづくりNPO新町なみえ	みまもり&移動支援「浪江町民の絆をつなぎ未来につなぐ新ぐるりんプロジェクト」	福島県二本松市
④	一般社団法人 こころスマイルプロジェクト	石巻市における、震災で心に傷を負った子どもたちと保護者へのアートや遊びを通じた心のケア	宮城県石巻市
⑤	特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワーク	石巻圏域の子育て環境改善のためのプログラム開催事業	宮城県石巻市
⑥	一般社団法人 さとうみファーム	地域資源を活用した、仕事づくりとコミュニティの再生	宮城県南三陸町
⑦	特定非営利活動法人 よつくらぶ	道の駅よつくら港「こども遊び場事業」	福島県いわき市
⑧	特定非営利活動法人 吉里吉里国	集落営林型自伐林業による生業・街づくり事業～薪が紡ぐ、なりわい・街づくり～	岩手県大槌町
⑨	特定非営利活動法人 ベビースマイル石巻	マタニティ～未就園児親子の遊び場・居場所作りを通じた、子育て支援活動に関わる人材育成プロジェクト	宮城県石巻市
⑩	福島大学災害ボランティアセンター	「LIFE(生活・人生・いのち)寄り添い」包括サポートプログラムー子どもから高齢者までー	福島県福島市
⑪	特定非営利活動法人 キッズハウスりんごっこ	放射能や細菌から子ども達を守る屋内砂場の開設	福島県福島市

■ 地域コミュニティ・文化の再生事業

	団体名	事業名	所在地
⑫	特定非営利活動法人 おおさきエネルギーカウンスル	アースデイを通じた新しい価値観創造「おおさきにLOCALISM」プロジェクト	宮城県大崎市
⑬	認定特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク	災害復興公営住宅のコミュニティづくり促進プロジェクト	岩手県遠野市
⑭	特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター	仮設住宅住民の心身の健康維持・孤立感の軽減と災害公営住宅に係るコミュニティ形成	宮城県気仙沼市
⑮	認定特定非営利活動法人 桜ライン311	東日本大震災の風化防止と災害への意識啓発のための桜の植樹事業	岩手県陸前高田市
⑯	一般社団法人 SAVE IWATE	地域と人をつなぐ祭り・民俗芸能	岩手県盛岡市
⑰	復興さくらの会	被災地復興に向け、さくら基金を活用した桜の植樹及び維持管理等に係る事業	福島県いわき市
⑱	安波津野神社例大祭(あんばさま伝承祭り)実行委員会	安波津野神社例大祭用の神輿製作	福島県新地町
⑲	特定非営利活動法人 未来図書館	10年後の地域を担う中高生と大人の学びあいを活かした復興支援事業	岩手県盛岡市
⑳	特定非営利活動法人 やませデザイン会議	寄付が作る、新しい社会参加創造プロジェクト～復興久慈モデルを目指して～	岩手県久慈市
㉑	公益社団法人 みらいサポート石巻	石巻市復興祈念公園予定地における、住民主体の震災伝承	宮城県石巻市
㉒	特定非営利活動法人 幸創	就労継続支援B型・就労移行支援「こうそう」	宮城県利府町



団体紹介

所在地 福島県 福島市

団体の設立目的

災害被災地域での復興支援に関する事業、福島から日本を元気にする事業を行い、すべての人々が夢と志を持って最幸の人生を送ることができる社会の実現に寄与することを目的に設立した。

主な活動

- ・福島ひまわり里親プロジェクトに関する事業



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

福島ひまわり里親プロジェクト

〔事業内容〕

東日本大震災の影響で、仕事が激減した福島県二本松市の福祉作業所「NPO法人和」にひまわりの種の袋詰等の軽作業を仕事として依頼するとともに、その種を育て採れた種を福島に送る『里親』を募集し、『里親』へ種を販売することで雇用支援につなげており、『里親』として2011年から全国累計(福島除く)約17万人が参加している。全国から届いた種は福祉作業所で選別、袋詰めした後、福島の観光地や仮設住宅、学校等へ無料配布し、『復興花ひまわり』として教育現場で活用、道徳教育、地域の絆づくりにつなげている。

〔事業目標〕

- ① 福島県の小学校と福井県の小学校の交流の実現
- ② 福島県内の学校・団体へ全国から届いた種を寄贈(100か所25,000個)
- ③ 福島県内の福祉作業所へ仕事の依頼による雇用創出
 - ・販売用種の作成(4,000個)
 - ・福島県内へ無料配布用種の袋詰め(25,000個)
 - ・広報誌『ひまわり新聞』の折り込み作業(1万部)
 - ・ひまわり油搾取、バイオエネルギーへ変換(種50kg分)



福井県と福島県の小学生交流(ステージ発表)



川俣中学校へひまわりの種を寄贈

参加者・利用者の声

佐藤 美穂さん 特定非営利活動法人和 施設長

ひまわりの種の袋詰め等をお仕事としてさせていただき、利用者の皆にお給料としてお支払いできたことに感謝しています。『福島ひまわり里親プロジェクト』を通じて、顔の見える全国の方とつながりができ、福島県の観光や施設を見学に訪れてくださる方が増え、そうした方々との交流の機会をいただいたことも嬉しく感じています。



助成事業の成果

・道徳教育・全国と福島の絆づくり

被災地福島に『ひまわりの種と歌』を贈った福井県の小学生(福島県教育委員会発行 福島県道徳資料集掲載)を福島へ招き、交流を実現した。また、プレゼン大会を開催し、福井と福島の小・中学生と福祉作業所利用者の計64名が合唱、536名(内県外271名)が来場した。

・福祉作業所の雇用支援

軽作業を福祉作業所に仕事として依頼し雇用を支援した。(販売種袋詰4,100個、福島配布種袋詰47,000個、広報誌折り10,000部、福島栽培種52kgから搾油しバス燃料として活用)

・観光復興

全国から届いた種を福島県内148か所(企業・行政78、学校34、個人36)に計46,414個を無料配布し、観光地等に花を咲かせ観光振興を図った。

助成事業の今後の展望・課題

・障がい者の雇用や自立は依然としてハードルが高く、今後も支援継続が必要であることから、ひまわりを通して福祉作業所への社会的な関心をより高め、福島県のみならず全国の福祉作業所の新たな仕事を創出するきっかけにする。

・福島へ子どもを行かせることへの不安が未だ根強くあり、躊躇する保護者が多いことから、ただ単に種を販売するのではなく、『ひまわりを育てる=命を育む・心を育てる教材』として1年を通して学習できることをPRしていく。

・広島折鶴のようにひまわりの種を学校や地域で育て、福島に持参するという物語で教育旅行のきっかけをつくり、地域交流、コミュニティの強化につなげ、福島を「同様の街」から「尊敬の街」として見学できるモデルにする。

特定非営利活動法人こそだてシッパ

日常生活の
再建事業

2



団体紹介

所在地 岩手県大船渡市

団体の設立目的

被災地である大船渡市、陸前高田市、住田町において、妊婦や乳幼児およびその家族に対して、安全で安心できるような子育て支援を行い、健やかな子どもの育成に寄与することを目的に設立した。

主な活動

- ・「ママサロンこそだてシッパ」
- ・子育て支援室「すくすくルーム」
- ・「赤ちゃん訪問こそだてシッパ」



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

ママサロンこそだてシッパ

〔事業内容〕

ママサロンでは2011年10月から助産師が中心になり、大船渡市と陸前高田市で毎月1～2回、妊婦から1歳までの母子およびその家族を対象に居場所を作り、母子相談等安全で安心できる子育て支援を行う。また、「赤ちゃん訪問」は、サロンに参加できない育児困難な(孤立、軽うつ状態、育児ストレス等)乳幼児を持つ母親およびその家族や妊婦を訪問し、地域社会に積極的に参加していけるよう育児支援を行う。

〔事業目標〕

- ① ママサロンを大船渡市および陸前高田市で月1～2回開催し、毎月20～30組程度の参加を目指す。
- ② 居住地まで向く「赤ちゃん訪問」を実施し、孤立妊婦や母子に子育て支援を行う。
- ③ 参加者アンケートを50～60名程度実施し、変化の激しい子育て環境に対応した支援を行う。



ママサロンの様子



ママサロン参加者

助成事業の成果

ママサロンの妊婦から乳幼児を対象とした支援は、当地域で唯一の民間支援であり、活動の中心を助産師等の専門職スタッフが担うことにより、激変した環境の中で日常的に発生する育児の不安や心配を気軽に相談できる安全で安心な子育て支援の場が確保できた。事業年度内の参加母子数は389組で参加者総数は857名であった。「赤ちゃん訪問」は公的支援も徐々に復活し、対象者の要請が減少した結果8件の実施となった。なお、継続支援や見守りが必要な母子および「よろず」的相談等を実施し、ママサロンの滞在時間は延長した。

助成事業の今後の展望・課題

助産師が駐在し、妊娠期から関わる当団体の活動は、地域事情からも中断できない、無くてはならない子育て支援活動である。「おたがいさま」という地域風土の中で、子どもたちの笑顔とパワーで高齢化の進む街も元気になれる。特に赤ちゃんの癒し力は凄い!

当地域における子育て(年間400名余りが出生)を地域関連団体や行政と連携、協働し、地域ぐるみで支援することにより、街の活性化に努めたい。そのためにはネットワークづくりと母親たち自らが運営するママサロンの開設が課題である。

参加者・利用者の声

大村 恵世さん ママサロンスタッフ

「ママサロン」に参加した母親たちは、助産師やスタッフ達と気さくに会話をしています。何でも聞くことができ、専門的なアドバイスが得られる「ママサロン」は、地域のとても貴重な子育て支援の場になっております。「ここに行けば大丈夫!」という信頼と安心感で地域の出産や育児を支えています。

特定非営利活動法人 まちづくりNPO新町なみえ

日常生活の
再建事業

3



団体紹介

所在地 福島県二本松市

団体の設立目的

浪江町の復興をめざし官民協働によるまちづくりを目的に設立した。

主な活動

- ・復興まちづくり
- ・高齢者の移動支援(新ぐるりんこ)の運営
- ・ワークショップの開催
- ・ふるさと祭りの継承
- ・絆サロンの運営
- ・借上自治会
- ・仮設住宅自治会への支援



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

みまもり&移動支援「浪江町民の絆をつなぎ 未来につなぐ新ぐるりんこ」プロジェクト

〔事業内容〕

二本松市に避難している浪江町民で、移動手段の無い高齢者や引きこもり傾向にある人に会員制での移動支援を提供することで外出を促し、生活の質の向上を図るとともに、町社会福祉協議会等と連携しながら見守り支援につなげていく。さらに旧来の友人・知人との交流の再生等によるコミュニティの再生を図る。

〔事業目標〕

- ①「なかよし号」の会員を200名とする。
- ② 週平均の利用者数を100名にする。



復興まちづくりを考えるワークショップ(南相馬)



ふるさと祭「盆踊り」の開催(二本松)

参加者・利用者の声

気兼ねなく行きたいところに移動できるので行動範囲が広がりました。



新ぐるりんこ会員証

助成事業の成果

独居や高齢者の見守りがわりの移動支援として、移動手段の確保が難しい人たちが気兼ねなく利用できる環境をつくり上げたことで、閉じこもりがちな人や移動支援を必要としている人がいつでも気軽に予約でき、大変喜ばれている。

福島県の予算が認められ、10月から運行継続が可能となったため、仮設住宅や借上住宅だけでなく、これから起こりうる復興公営住宅での孤立や孤独死等の問題の解消につなげる基盤を築くことができた。

助成事業の今後の展望・課題

〈展望〉

帰還に向けて、慌ただしい雰囲気と、まだ安心して帰れないとの狭間で迷う人々と、多くの課題の中で私たちNPOが何ができるのか？

自問自答の毎日ではあるが、少しずつ前に踏み出すことが大事と考えている。できることから手をかけているつもりだが、なかなか自信が持てない事ばかりであり、悩みながらはたして復興は進むのか、私たちNPOが残したものはと考えると、あまり多くのものは残せていないのかもしれない。

こうした中で、移動支援はこれからも続けていけることになった。この事業はやはり多くの人々のために消しては成らない事業だと感じている。

当団体も、今後も行き詰まることはあるのかもしれないが、多くの皆さんの励ましとご支援をいただきながら、ふるさと復興のために活動を続けたいと思う。

〈新ぐるりんこの運行上の課題〉

ドライバー・オペレータの複数化が実現できず、昼休み等や複数での予約運行に対応できない場合もあった。現状では、当団体の役員がボランティアとしてフォローしていた。さらに助成金で賄えない部分を役員自らの寄付により運営協力をしている状況にあり、待遇改善がこれからの課題である。

一般社団法人 こころスマイルプロジェクト

日常生活の
再建事業

4



団体紹介

所在地 宮城県石巻市

団体の設立目的

東日本大震災で家族を亡くした子どもたちやPTSD（心的外傷後ストレス障害）等、心に傷を負った子どもたちの心のケアを目的に設立した。

主な活動

- ・震災で心に傷を負った子どもたちと保護者のケアサポート
- ・震災を起因とした不登校児童の復学支援
- ・子どもを亡くした母の会運営（ピア・カウンセリング）



助成事業

（助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日）

石巻市における、震災で心に傷を負った子どもたちと保護者へのアートや遊びを通じた心のケア

〔事業内容〕

震災で心に傷を負った子どもたちを対象に「悲しみ・不安・怒り」等、言語化できない「心の声」をアートや遊びを通じて表出させる。また、不登校や情緒不安定で孤立している子どもたちが、毎週金曜日開催の子ども広場や月例イベント等、小グループ活動を通じてコミュニケーション能力を高め、他者を認め受け入れると同時に、ありのままの自分を受け入れ自己肯定感を高めることで復学につなげる。並行して保護者の相談事業を実施する。日常的なストレスを軽減することで、子どもが安心して過ごせる家庭づくりに寄与する。

〔事業目標〕

- ① 震災で心に傷を負った子どもたちが、子ども同士の触れ合いを通じ、コミュニケーション能力の向上と自己肯定感を高める。
- ② 保護者の日常に抱えるストレスを軽減し、精神面の安定を図り、より良い親子関係、家庭環境を築く。
- ③ 学校や行政と連携を図り、団体としての認知度を高め、石巻市の心に傷を負った子どもたちが当団体へアクセスしやすいようにする。



ファミリーセラピーで親子ともにリラックス



「子どもアートセラピー」
（言語化できない不安感情を表出）

参加者・利用者の声

こころスマイルの人たちは、面白くて、暖かい人柄の人たちばかりで、自分にとってこころスマイルは落ち着ける場所です。こころスマイルに通い始めてから病気の症状が良くなり、最初は4錠だった薬が今では半分に減りました。またバイト先も紹介してもらい、社会で働けるようになりました。今年の1月から学習支援もしてもらい、2月に受けた高校入試に合格することができました。本当にこころスマイルの人たちにはとても感謝しています。（17才・男子）

助成事業の成果

1. 不登校児童5名が2016年4月時点で全員復学した。
2. 不登校中学生2名と精神疾患で高校を中退し引きこもり状態にあった子ども1名が県立高校に入学することができた。
3. 震災時小1でPTSDを発症した児童が小6で完全復学し中学へ無事入学した。
4. アウトリーチ活動を行い、新規で4名の子どもが入会した（死別3名、情緒不安1名）。
5. 情緒不安定でグループ活動が困難だった児童が4月より子ども広場に参加し交流できるようになった。

助成事業の今後の展望・課題

1. 子どもたちは成長とともに様々な心の問題と直面し葛藤している。それぞれの課題・心の状態を見極め、一人ひとりの成長に合わせた細やかな対応と継続した関わり、見守りを行っていく。
2. 保護者相談事業で日常のストレス軽減には成功しているが、3月やお盆前後は不安定になるケースが多い。特に子どもを亡くした母親は、入学式・運動会・誕生日等の記念行事に気持ちの浮き沈みが激しく、いつでも相談にのれる体制を継続していくとともに、子どもを亡くした母の会で気持ちをわかち合う場を提供し、子どもに影響が及ばないようにサポートしていく。
3. 将来、石巻圏域の「心のケアセンター」の役目を担えるよう、行政や医療機関、グリーフケア団体との連携を強化し、地域の担い手となる人材育成、組織基盤の強化を図り、自主運営を目指す。

特定非営利活動法人 石巻復興支援ネットワーク

日常生活の
再建事業

5



団体紹介

所在地 宮城県石巻市

団体の設立目的

石巻市民ならびに石巻市内およびその周辺地域の団体が、互いにネットワークを構築し、雇用の創出、その他の支援活動を行い、石巻市の復興に寄与することを目的に設立した。

主な活動

- ・仮設住宅団地および復興公営住宅団地でのコミュニティ形成支援事業
- ・生きがい仕事づくり(内職提供)事業
- ・震災復興起業支援事業
- ・ママ・子ども支援事業
- ・コミュニティカフェ事業



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

石巻圏域の子育て環境改善のためのプログラム 開催事業

〔事業内容〕

ノーバディズパーフェクトプログラム(NP)を石巻圏域で開催することにより、子育て中の母親の孤立を防ぎ、ストレスを低減し、子どもへの虐待や育児放棄を防ぐ。母親たちが心身ともに健康な状態で育児ができるようになることにより、地域の未来を担う子どもたちの健全な成長を促す。

〔事業目標〕

- ① プログラム開催回数8回
- ② プログラム参加者64名
- ③ プログラム終了後アンケート満足度98%以上



参加者が自分の思いを皆の前で発表している様子



ファシリテーターを交えて話し合っている様子

参加者・利用者の声

遠藤 仁美さん NP認定ファシリテーター

子育て中に孤立していた自分を奮い立たせてNPを受講し、プログラムの内容に感動し、次の年にファシリテーターの養成講座を受講して、今回は12シリーズのファシリテーターを務めました。私のように孤立している母親を一人でも少なくできるように、石巻を「楽しく子育て出来る街」にしていきたいと思っています。



助成事業の成果

子育て中で孤立しがちな母親をサポートすることで、孤立から生まれる虐待やネグレクトの可能性を少なくすることにつながった。また、NPを受講した後は、母親が前向きに生活や自分自身のこと、家族のことを考えられるようになったほか、当団体開催の他イベントやセミナー、公民館のイベント等にも積極的に参加するようになり、起業を考える参加者も出てきた。さらに、託児を経験することで親以外の大人や友達と接することになり、子どもたちに社会性が身についた。

助成事業の今後の展望・課題

課題としては、2グループのプログラムを同時進行で開催した場合に、スタッフが参加者ひとりひとりに専念できなくなるためか、参加者の満足度が低くなる傾向にあったため、計画の段階から開催予定が重ならないよう注意する必要がある。

また、展望としては、これまでの開催を通してNPの子育て環境の改善への有用性は実感できているが、自立開催する仕組みが整っておらず、今後の継続開催が危ぶまれている。今後の事業では、過去の参加者へのインタビューや、ファシリテーターへのフォローアップを行い、それらを整理して発信することで、プログラムの検証および今後の改善と継続開催への仕組みづくりにつなげていきたい。



団体紹介

所在地 宮城県南三陸町

団体の設立目的

南三陸町の農林水産業の発展と雇用、新規産業の創出、地域経済の発展と環境の改善を目的に設立した。

主な活動

- 被災地の子どもたちの心のケアを目的とした遊びの提供(主にシーカヤック)
- 羊牧場を核とした地域活性化事業(ブランド羊肉、羊毛等)
- 間伐による森林保全事業



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

地域資源を活用した、仕事づくりと コミュニティの再生

〔事業内容〕

羊毛とシルクを混毛して紡ぎ新しい製品を開発するとともに、羊毛の洗いやごみ取り処理については町内福祉作業所、羊毛とシルクの紡ぎを高齢者の経験者に依頼することで仕事づくりを図る。また、その過程でワークショップを定期的に開催しコミュニティの再生を図る。

〔事業目標〕

- 羊毛とシルクを混毛し、地域の新しい特産品を2品目作る。
- 高齢者と障がい者の収入アップにつなげる。(対象人数30人程度)
- 高齢者および障がい者を対象とした、羊毛、シルク関連のワークショップを定期的に開催する。(対象人数1,000人目標)



羊毛喫茶の様子



南三陸産の羊毛とシルクの混毛と完成した商品



ひきこもり児童の作業風景

助成事業の成果

目標に掲げている南三陸産羊毛と南三陸産シルクの混毛商品づくりは、帽子とマフラーの商品化である。帽子は商品として完成し、マフラーは町内「ひころの里」にて機織りにて商品化中である。

障がい者施設にて、毎月羊毛のごみ取り外注を依頼した(毎日2～3名)。また、毎週1回牧場にて不登校・ひきこもり児童が、羊毛ごみ取り・洗毛作業を行うアルバイトを実施した(週4、5名)。ワークショップ「羊毛喫茶」は月に2回開催した。毎回6～10名の地域の高齢者の方が集まり、地域の高齢者の交流の場としても大いに役立った。

助成事業の今後の展望・課題

今後の展開は、商品デザインの洗練化・増産体制・作り手の育成に力をいれ、他団体と連携して商品展開していく。課題としては、作り手に地域の方をどう巻き込み、育成していくかという点においてももう少し工夫が必要である。高齢者・障がい者ともに仕事づくりとして、スキルアップが必要であり時間もかかるため、今後も継続していきたいと思う。また、ワークショップは、地域の高齢者のコミュニティづくりにも貢献していることから今後も継続して行う。

参加者・利用者の声 ……

新しい家もできたけど、なかなかみんなが集まる機会がないので、毎回楽しみに参加しています。羊毛で、いろいろな物が作れるのでこれからも楽しみです。
(畠山／地域住民)





団体紹介

所在地 福島県いわき市

団体の設立目的

市民と行政との協働により、賑わいのあるまちづくりに関する地域振興の事業を行うことで、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的に設立した。

主な活動

- まちづくりに関する地域活性化事業（道の駅よつくら港交流館管理運営等）
- まちづくりに関する公共施設の管理、運営事業（道の駅よつくら港情報館指定管理）
- 子どもの健全育成を図る事業（チャイルドハウスふくまる運営管理等）



助成事業

（助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日）

道の駅よつくら港「子ども遊び場事業」

〔事業内容〕

「チャイルドハウスふくまる」における屋内遊び場や、道の駅よつくら港内の「ふれあい広場」における屋外遊び場の安心安全な運営管理と併せて、東日本大震災遺児孤児・子育て相談等を図り、将来を担う子どもたちを地域の愛で育て見守り、子どもたちの健全な育成を支援する。

さらに、他地域との体験交流事業等も通して、地域における次世代のリーダー育成を図る。

〔事業目標〕

- ①「チャイルドハウスふくまる」の安心安全な遊び場の利用者を、年間44,000名とする。
- ②「チャイルドハウスふくまる」における相談支援件数を、年間50件とする。
- ③他地域との体験交流事業の参加者数（親子）を、合計180名とする。



チャイルドハウスふくまるの建物



親子でリズム体操の様子

参加者・利用者の声

- ・人見知りがひどく、保育園に入る前に心配で来るようになりました。同じくらいの年齢の子と遊ぶようになって安心して保育園に行くようになりました。（ふくまる利用者 2歳女児の母）
- ・初めて三輪車に挑戦しました。乗れるまで何日も通って今は上手に乗れるようになった息子の笑顔がたまらないです。（ふれあい広場利用者 4才男児の母）
- ・みなと区民まつりでの野菜販売や防災学習など貴重な体験ができました。（元プロジェクト参加者 4年生女子）

助成事業の成果

安全安心な遊び場の利用者は年間約37,000名であった。子育ての場・母親同士の交流の場として愛用され、市民の利用のほか原発事故等により避難している子どもたちの利用も多かった。

また、相談支援件数は年間79件であった。臨床心理士が子育てや家庭問題等の多岐にわたる相談に対応し、地域の母親たちからも一定の信頼を得ることができた。

さらに、交流体験事業の参加者は合計132名であった。子どもたちには、多様な活動の中で独創性の発揮や協調性の大切さ等、貴重な学びの場を提供することができた。

助成事業の今後の展望・課題

今後とも「子ども遊び場」を基軸に、定期的に各種イベントや外部からの支援イベント等を実施し、地域の愛で育て見守り、将来を担う子どもたちの健全な育成支援を図る。

また、広報PRについては、公共機関等との連携をさらに緊密にし、「チャイルドハウスふくまる」自体の周知徹底や、当団体の子ども育成支援活動の定期的な周知に努め、地域内における認知度の向上に努め、施設の利用者・事業への参加者等の増加につなげたい。

加えて、将来にわたっても愛着を持っていただけるように、利用者ニーズを踏まえた事業運営に努め、持続可能な子ども育成支援の方策を模索したい。



団体紹介

所在地 岩手県大槌町

団体の設立目的

地域の環境を育む森林資源を有効に活用しながら、吉里吉里の森を海の再生へとつなげ、この活動を次世代に残していく活動とするとともに、地域社会に寄与することを目的に設立した。

主な活動

- ・森林整備事業
- ・薪の生産販売事業
- ・人材育成事業



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

集落営林型自伐林業による生業・街づくり事業 ～薪が紡ぐ、なりわい・街づくり～

〔事業内容〕

- ・集落営林事業による森林整備を通じて森林価値の維持等を図るとともに、森林資源(間伐材等)を有効活用し薪生産を拡大することで、継続的な生業づくりを実現し、被災住民の雇用確保や日常生活の再建を図る。
- ・後継者育成事業を通じて、地域資源の価値を再確認することで、地域住民と一体となった地域再生に取り組む。

〔事業目標〕

- ① 熱源供給事業の拡大のため、薪ボイラーによる薪の出荷量を3倍に増加する。
- ② 集落営林事業の拡充を図り、間伐材の安定的供給と販路開拓を継続し、副業的薪事業における雇用を拡大する。
- ③ 薪ストーブ生活者等の数を10倍に増やす。



薪割機による薪割り作業



「薪まつり」の薪割り体験

参加者・利用者の声

ホワイトベースの「薪で沸かした湯のお風呂」は、お湯がやわらかくて気持ちが良いお風呂です。震災復興工事で疲れた体を毎日癒してくれます。疲れもとれて、大変ありがたいと思っています。(大槌町営ホテル ホワイトベース宿泊客)

薪まつりに参加して、薪割り体験ができて楽しかったです。薪で焼いたピザもとても美味しかったので、自宅に薪のピザ釜を作ろうかと思っています。これからも薪を使った暮らしを広めるために頑張ってください。(大槌町民 薪まつり参加者)

助成事業の成果

助成で購入したエンジン薪割機のおかげで、森林整備により発生する間伐材を有効活用した薪の生産活動は、年間を通じて円滑に実施できた。

この薪を活用して、熱エネルギー供給事業を実施している大槌町宿泊施設の薪ボイラーの見学者が増加している。

また、11月に薪まつりイベントを開催し、薪ストーブの実演展示、薪を使ったピザ窯で焼いたピザのふるまい等を実施し、薪を使った暮らしを大勢の人にアピールし、薪の販売促進活動を実施できた。これらの活動により、地元集落の人達に薪をつかったライフスタイルへの関心が高まってきている。

助成事業の今後の展望・課題

当団体では、荒廃した地域集落の里山を豊かな森に再生し、後世に遺すための森林施業を行っている。成長の見込みがない低質材を間伐し、高質材を残す施業方法である。当団体の集落営林による自伐型林業が、山林所有者はもちろん全国からも注目を浴びるようになってきた。

また、地域の人々に薪を使ったライフスタイルへの関心を高めて行くという活動は、徐々に浸透しており、今後ともこの活動を進めて行けば、地域全体が、生活の一部に薪を使ったライフスタイルに徐々に変わり、美しい地球を守って行くという高い目標につながる。

「はじめてから美しい村などあった訳ではない。そこで、美しく暮らそうとする人たちがいて、美しい村はつくられたのである。」という気持ちで活動を続けて行く。

特定非営利活動法人 ベビースマイル石巻

日常生活の
再建事業

9



団体紹介

所在地 宮城県石巻市

団体の設立目的

被災地である石巻で妊婦から未就園児親子を対象として、居場所・遊び場・情報交換の場づくりを行い、地域とネットワークをつなげて孤立を防ぐことで、子育て環境の復興に寄与することを目的に設立した。

主な活動

- 親子の居場所・遊び場づくり
- 子育て情報発信
- 子育て支援ネットワークの構築



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

マタニティ～未就園児親子の遊び場・居場所作りを通した、子育て支援活動に関わる人材育成プロジェクト

〔事業内容〕

マタニティ～未就園児親子を対象とした子育てひろばを運営し、地域との交流や連携をしながら遊び場、居場所の提供を行う。また、遊び場・居場所づくりの実践を通して、子育て支援の人材育成の場とする。

〔事業目標〕

- ① 年間利用者数を1日平均親子10組、年間2,400組とする。
- ② 子育て支援事業に従事できる知識と経験を備えたスタッフを5名育成する。



おもいっきり体を動かして遊ぶボンボンパーク



「みんなのひろば」はママの特技披露の場にも

助成事業の成果

市の委託運営子育てひろばと連携のうえ、「みんなのひろば」と「出張ひろば」を運営し、親子利用の入口を増やした(1歳～3歳の利用が多かった)。子どもと一対一で向き合おうとする母親たちが、次第にみんなで見守りあい、子どもとの日常を楽しめるようになっていく過程があった。震災により親世代を失ったことで、子育ての負担感が増している母親の利用も多い。震災により移ってきた家庭が多い地域で、子育て世帯がつながる場となった。また、市の健康推進課と連携したことで、ひろば+母子保健の見守る体制ができた。これらの事業は地域の子育て支援の人材育成の場ともなった。

助成事業の今後の展望・課題

地域の中に母子が安心して過ごし、親子が育ちあえる居場所づくりには、「場所」も大切だが、「人」づくりが大切であると、改めて感じる事業となった。

今回の事業の反省点を今後の事業に活かし、親子の居場所・遊び場づくりを地域住民と地域の課題として一緒に考え、資金面、人材面も含め、巻き込んでいきたい。

そのためにも、地域の子育て支援団体と連携し、子ども達の育ちに応じた、縦軸の連携体制づくりが必要である。

参加者・利用者の声



子どもが楽しめる場所だけではなく、私のストレスが発散できるありがたい場所です。(高橋由佳里・りるあちゃん2歳／利用者)



子どもの育ちを刺激してくれる場です。母たちの情報交換の場にもなっているのですごく助かっています。(佐々木美和子・ゆうせいくん2歳／利用者)



団体紹介

所在地 福島県福島市

団体の設立目的

東日本大震災により、多くの人々が避難生活を余儀なくされている中、被災者の継続的な支援、様々なニーズ対応、その活動に関わりたい学生の受け皿となることを目的に団体を設立した。

主な活動

- ・仮設住宅でのコミュニティ形成支援・コミュニケーション支援
- ・津波被災地での片づけ作業、農地再生活動
- ・子どもたちのキャンプ活動



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

「LIFE(生活・人生・いのち)寄り添い」包括サポートプログラムー子どもから高齢者までー

〔事業内容〕

過去に寄り添う活動として、津波・地震現場での復興支援を行う。今に寄り添う活動として、仮設・民間借り上げ(みなし仮設)・復興公営住宅自治会への協力や協働、生活支援、「いるだけ支援」(仮設住宅拠点化生活支援活動)を行う。未来を紡ぐ活動として、子どもの力支援、帰還地域でのニーズ対応、コミュニティづくりを行う。

〔事業目標〕

- ① 過去に寄り添う活動として、被災地に10回以上は現地入りする。
- ② 今に寄り添う活動として、各々の活動を通して、延べ1,200名以上のひと々と交流する。
- ③ 未来に寄り添う活動として、キャンプ定員を充足し(子どもキャンプ)、村民との話し合いをもとに、5年後をイメージした賑わい拠点の基礎を作る。



いるだけ支援の様子



ネイチャリングキャンプの様子

参加者・利用者の声



活動に参加する中で、住民の皆さんと顔なじみの関係ができていと思う。これからも多くの活動に参加してたくさんの方に自分のことを知っていただけたらと思う。(参加者：佐々木翔太郎／学生・災害ボランティアセンター)



大学生ボランティアはとても立派です。大変よくやってもらっています。大学生が良い方ばかりでとても楽しいです。イベントごとよりもいっそう楽しくなります。いつも助かっています。(利用者：松本善吉さん／仮設住宅住民)

助成事業の成果

仮設住宅の活動を通して、学生と住民の皆さんの間に顔見知りの関係ができ、会話の中で自然と「前にも一回来てくれたよね。」「また来てくれたんだね。」といった言葉が多く聞こえるようになった。中には住民の皆さんと個人的に親しくさせていただいている学生もあり、深い交流を通して、住民の皆さんに笑顔が増えたように思う。都路地区での活動では、学生が普段慣れない作業を行う際に、地元の住民の皆さんが活動に積極的に関わること、どちらか一方による支援活動をするのではなくお互いが支援し合う活動ができているように感じている。被災地での活動に関しては、帰還が進む地域において自分たちの活動の必要性を改めて感じた。

助成事業の今後の展望・課題

様々な活動を展開する中で、学生の参加者が固定化してきている。また、仮設住宅から復興公営住宅に移る住民の皆さんが増えていく中で、仮設住宅での季節の活動を行うときに比べ、恒常的に行う活動の足湯活動や健康体操の時は参加者が少なくなり、固定化されつつあるように思う。

特定非営利活動法人 キッズハウスりんごっこ

日常生活の
再建事業

11



団体紹介

所在地 福島県福島市

団体の設立目的

放射線の被害を受けた福島市で、学童保育所の運営を通して児童の心身の望ましい発達を支援するとともに、悩みを受け止めることを目的に団体を設立した。

主な活動

- ・児童の心身ともに健やかな発達を促すことによる、健全で豊かな地域社会への寄与
- ・放課後の保育が必要とされる小学生に対する、豊かで安全な放課後および学校休業日における生活の場の確保による保護者の働く環境の支援
- ・子どもの悩みや願いへの対応や、望ましい生活習慣(学習習慣・読書習慣・挨拶・片付け等)を身に付ける支援



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

放射線や細菌から子ども達を守る屋内砂場の開設

〔事業内容〕

放射線等の不安から今も積極的に砂場での活動ができない子どもたちのために、安心して遊べる屋内砂場を設置し提供することにより、砂場が育む創造性・社会性および癒やしの効果から幼児・児童・障がい児の心身に望ましい発達を促すことを目的とする。また、その発達段階に応じた支援や環境構成を、同志社女子大の笠間浩幸教授の指導の下に行う。

〔事業目標〕

- ① 放射線により、砂場での活動を経験できなかった子どもたちに、安全な砂遊びを経験させる。(年間利用者：1,000名以上)
- ② 砂遊びやサンドアート制作にあわせてイベントやディスプレイ展示を行い、「創造性」「社会性」等を育む。(年間実施回数：10回以上)
- ③ 特に、特別支援学級の知的障害児、普通学級に在籍する発達障害児、集団不適応の傾向がある児童に砂の持つ癒しを体験させる。(年間利用者：100名以上)



福島サンドストーリーのスタッフと砂場で遊ぶ子どもたち



砂場小屋のロフトで遊ぶ保育園の園児たち

参加者・利用者の声

渡辺 太賀司さん 福島大学 名誉教授

子どもの成長にとって砂場は重要な遊び場といえる。しかし、放射線の問題で、砂場が危険な場とされ、子どもたちから遠ざけられたまま5年以上も経過するといった状況に、いささか不安を感じていた。屋内砂場の設置は、その解決につながることに、今後の砂場のモデルとなるものである。屋内砂場の利用がさらに広範囲になるとともに、今後のりんごっさんの活躍に期待したい。



助成事業の成果

屋内砂場は、オープン時から親子や一般児童からの利用があった。加えてNPO法人「福島サンドストーリー」とのコラボ企画により、イベントを10回開催し、地域の児童・幼児、教育団体にも呼びかけた結果、9月までの利用は幼児・児童を合わせ1,600名を超えた。寒くなってからの利用は少なくなったが、日中の空白時間を活用して利用できるよう進めている。また、障がい児の参加は年間延べ112名となり、当初の目標を達成できた。現在は隣接する小学校の特別支援学級に呼びかけ、利用を促している。

助成事業の今後の展望・課題

幼児には、砂で遊ぶことの楽しさを、下学年では作る喜びを、上学年ではサンドアートの基礎を含む造形活動を目指し、その実現のためにディスプレイを提供することを試みたが、砂の乾燥度が調整できず、さらさらで固まらない砂になってしまい、期間内では実現できなかった。しかし、具体的な作品に何度も挑戦する態度や協力して制作する楽しさや大切さを身に付けることは極めて重要である。今後も水分を調整し、必ず実現させるとともに、それまではキネティックサンドでのアートや写真の提示等、できるところから始めたいと考えている。また、知的障がい児と健常児の交流は、極めて効果的であったものの、所外の障がい児までに発展しなかった。砂場の効果と併せて広報・啓発活動を続けていきたい。

特定非営利活動法人 おおさきエネルギーカウンスル

地域コミュニティ・
文化の再生事業

①



団体紹介

所在地 宮城県大崎市

団体の設立目的

大崎市は、自然豊かで再生可能エネルギーとして利用可能な自然の力が沢山眠っており、再生可能エネルギーの普及啓発を進めることで、地域の価値を向上し、地域の人々が誇りを持てる豊かな地域社会を実現することを目的に設立した。



主な活動

- 環境事業
- 環境普及啓発事業
- 環境旅行事業
- 環境ビジネス事業

助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

アースデイを通じた新しい価値観創造 「おさきにLOCALISM」プロジェクト

〔事業内容〕

合言葉は「OSAKI NI LOCALISM」。ローカルを楽しみ、ローカルの文化を大切に、ローカルで生み出すものを大切にする取り組みを広げる。アースデイイベントを軸に、それにに向けた様々な講演会やワークショップで、地域の方々が主体的に参画し、楽しみながら活動することで、結果的に昔からの文化に目を向け、新たな価値観を共有した地域コミュニティの再生を目指す。

〔事業目標〕

- ① アースデイみやぎ大崎 イベント参加人数 2,000名
ボランティアとして企画・運営にかかわる人 100名
- ② 関連する事前講演会への参加者数 100名
ボランティアとして企画・運営にかかわる人 30名
- ③ 関連するツアー参加者 30名
ツアー企画・運営にかかわるボランティア 10名



エネツアー



縄文土器づくり

参加者・利用者の声

アースデイみやぎ大崎2016の実行委員として、主に広報活動に携わった。大崎市に転居したばかりの時期で、地域のことや人々を知る良い機会と思いボランティアとして参加した。アースデイや関連のイベントに関わるうちにたくさんの方々と交流が生まれ、結果としてこの活動が契機となり現在の業務につながっている。アースデイみやぎ大崎は「エコ」を通して地域の歴史や文化を知る良い場になったと思う。(田口 知子さん)

今回、アースデイみやぎ大崎のボランティアスタッフとして、また、その事前イベントなどの参加者としてお世話になった。関わる中で、ボランティアの私たちが学ばせてもらったように思う。各種イベントをやりながら、私たちの想い一つにして地域につなげていく。それが、新しい地域づくりにつながっていることを肌身で感じ、とても良い機会をいただいた。また、アースデイと一緒にボランティアをしたスタッフと、次の活動が生まれている。アースデイは地域の中で「何かやりたい人が集まる場所」そして、新しい地域づくりが始まる場所だと実感している。(志賀 理恵さん)

助成事業の成果

- ① アースデイみやぎ大崎(当日)イベント参加人数 1,600名
企画・運営参加人数 240名
参加者からは満足度が高く、単なる地域イベントとは一線を画しているメッセージ性があるイベントであったとの評価を受けた。
- ② 関連する事前講演会への参加者数 150名
ボランティアとして企画・運営に関わる人 20名、運営スタッフ 2名
参加した実行委員が自主的に考えて企画を実現することで、新しい価値観でのまちづくりに関わる第一歩となった。
- ③ 関連するツアー参加者 64名
ツアー企画・運営にかかわるボランティア 4名、運営スタッフ 2名
参加者から「感動した」「今まで住んでいたのに知らなかった」という驚きと感動の声が寄せられる満足度が高いツアーとなった。

助成事業の今後の展望・課題

- ① 内陸部がかかえる傷
事業を進めるにあたり、内陸部に住んでいる人も心に傷を負っていることを再確認した。沿岸部だけではなく、大崎だけでなく、宮城全域、もっといならば東北・関東一円の方々が被災者だったのだと自覚した。特に、子どもたちはまだまだ心に傷を抱えている。今後の活動で、内陸部が抱える被災者支援を考えていく必要がある。
- ② 沿岸部と内陸部の情報格差
震災後、沿岸部は被害が大きかったことで、補助金や助成金も多く入り、外部からの人材も多く流入している。また、NPOの活動も活発で、それが地域を盛り上げる原動力となっている。一方、内陸部は変わるきっかけを失ってしまった地域のように見える。今後は、沿岸部のNPOとタイアップすることで、情報格差をなくし、興味関心の温度差をなくしていきたい。
- ③ イベントを通じた地域づくり
私たちの活動は、イベントを作り上げていくことが地域を作ることにつながっている。多くの実行委員とアイデンティティーを共有し、またアイデンティティーを作っていくというプロセスが大事である。昨年までは、10名程度で実施していた実行委員会が、今年は20名～30名となった。これまでに以上に、本音で話し、意見を吸い上げ、まとめていくというプロセスを、人数が多くてもおろそかにせずに地道に行うためにもファシリテーションの機能を強化していきたい。

認定特定非営利活動法人 遠野 山・里・暮らしネットワーク

地域コミュニティ・
文化の再生事業

②



団体紹介

所在地 岩手県遠野市

団体の設立目的

遠野市を主として「資源を生かした都市住民との交流と移住の促進」「伝統文化・芸能の伝承と進化」「里山における循環的な生活スタイルの再興と実践」等の事業を行うことにより、社会全体の利益の増進に寄与することを目的に設立した。



主な活動

- ・遠野の地域資源を生かした農村民泊等の都市農村交流の促進・実践による地域づくり
- ・第3種旅行業を生かした地域づくりや復興に関する視察・研修の受け入れ
- ・仮設住宅や災害復興公営住宅等への見守り活動

助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

災害復興公営住宅のコミュニティづくり 促進プロジェクト

〔事業内容〕

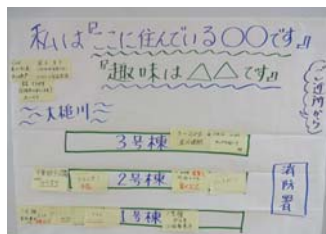
1日も早い復興を願う地域内外の参加者による交流を通して、災害復興公営住宅の自治会組織が中心となった持続的な地域コミュニティの創造や再生を行うためのきっかけづくり(うまいもの交流会や花壇づくり等)を行う。

〔事業目標〕

- ① 大槌町、陸前高田市の災害復興公営住宅の集会室等を使った交流イベントを12回開催する。
- ② 災害公営住宅入居者で平日在宅の方にはすべて告知を行う。
- ③ 平日に在宅する高齢者、特に男性のうち8割の参加を促す。(今まで集会室のイベントにはなかなか男性が参加しない傾向にあるため)



災害公営住宅の花壇への春咲き球根の植えつけ



うまいもの交流会の集会室で使用する自己紹介ボード

参加者・利用者の声



5年半の仮設住宅からいざ公営住宅に引越しとなると、どのような生活環境になるか不安だらけでしたが、皆さんの訪問を受けることとなり、自立した私たちにも元気を届けていただけたらとうれしく、感動しました。うまいもの交流会等、おかげさまで新しいコミュニティ構築にも役立てていただいていたと思っています。(村上ふみ子さん／陸前高田市「中田公営住宅」・自治会役員)

幸い私は、復興住宅に入居することができ、1年が過ぎようとしております。その間、餅り寿司、するみ汁、たこ焼づくり等、住民の皆様と一緒に参加できて、楽しいひと時を過ごすことができ、イベントのお陰で仲良くなれた事に、皆様も喜び、感謝、感謝です。高齢のわが身にとって、今後も続けてほしいと願っております。(佐々木睦子さん／大槌町「屋敷前公営住宅」・住民)



助成事業の成果

- ① 交流イベントの主な内容を「うまいもの交流会」(食べること)としたことで、想定していた住民参加が得られ、コミュニティづくりの機会となった。
- ② 自治会が設立されていなかった1ヶ所(大槌・屋敷前住宅)では、現地スタッフとつながりのある住民や県から委嘱された管理人とつながり、参加住民同士の交流ができた。また、交流においては自己紹介カード等で「困りごと」や「今後の交流企画の要望」を聞くことができ、その内容は、結成された自治会長さんからは参考になると歓迎された。
- ③ イベント実施を通じて、地域の諸団体(社会福祉協議会やワークスコープ)ともつながりが深くなった。

助成事業の今後の展望・課題

- ・共通する課題：①平日在宅、独り暮らしの男性が関われる企画のさらなる検討と実施 ②いつでも気軽に集える場(仕掛け)づくり ③規模の大きな住宅においては、趣味を同じくする人が一定数いることから、サークルづくりの支援 ④うまいもの交流会の講師の地元の方への依頼や実施
- ・新たな課題：立派な集会室があるが、イベントがない場合は、鍵がかかっている状況である。特に冬季間は住宅内の花壇等での集まりも厳しい環境のため、例えば「図書&喫茶室」のような場づくりが必要。またサークルづくりでは、他団体との調整も行いつつ、手芸(希望者は手仕事=収入につながる)サークルに挑戦する。
- ・個別の課題：県内最大規模の陸前高田市「栃ヶ沢住宅」で、地域内の関係諸団体と連携して、コミュニティづくりを応援する。

特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター

地域コミュニティ・
文化の再生事業

3



団体紹介

所在地 宮城県気仙沼市

団体の設立目的

すべての人々が自然と共存し、ともに生きられる社会を築くために、困難な状況にありながらも自ら改善しようとする人々を支援し、地球環境を守る新しい生き方を広め、対等・公正な人間関係を創りだすことを目的に設立した。

主な活動

- ・カンボジアでの生態系農業による生計改善
- ・ラオスでの森林保護・再生と持続的農業
- ・南アフリカでのHIVエイズの感染者自立支援
- ・パレスチナでの子どもの栄養改善
- ・福島県南相馬市での仮設住宅におけるサロン運営



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

仮設住宅住民の心身の健康維持・孤立感の軽減と 災害公営住宅に係るコミュニティ形成

〔事業内容〕

仮設住宅住民の心身の健康維持・孤立感の軽減を目的とした交流会や、災害公営住宅における孤立の発生を予防するため、入居予定者間のコミュニティ形成を促進する交流会を開催する。また、鹿折地区集合型災害公営住宅とその周辺地域のコミュニティ形成に関するワーキンググループの設立に向け、各関係機関との協議を行う。

〔事業目標〕

- ① 仮設住宅住民の心身の健康が維持され、孤立感が軽減される。
- ② 災害公営住宅入居予定者間のコミュニティ形成が促進され、入居完了後の孤立の発生が予防される。
- ③ 鹿折地区集合型災害公営住宅とその周辺地域が一体となったコミュニティが形成される。



災害公営住宅の入居予定者を対象とした交流会



ワーキンググループ活動を通じて開催した盆踊り大会

参加者・利用者の声

畠山 節子さん 心身の健康維持・孤立感の軽減を目的とした交流会 参加者
仮設住宅に住んでいると家に閉じこもりがちになりますが、体操を行うことで運動不足の解消につながりました。看護師による個別相談では、血圧のことや悩みごとについて等、気軽に色々と話すことができて良かったです。仮設住宅で暮らす人たちとお茶を飲みながら雑談するだけでも精神的に楽になりました。

助成事業の成果

心身の健康維持・孤立感の軽減を目的とした交流会を合計40回開催し、延べ176名の参加を得るとともに、本活動を地元支援団体に引き継ぐことができた。また、災害公営住宅のコミュニティ形成を促進する交流会を実施し、入居予定者計65名の参加を得ると同時に、災害公営住宅の自治会結成におけるキーパーソンを見出すことができた。加えて、地元関係機関とのワーキンググループ活動を通じて、災害公営住宅と周辺地域のコミュニティ形成を促進する地域行事(盆踊り大会)を開催し、地域の一体感を醸成することができた。

助成事業の今後の展望・課題

災害公営住宅への入居完了後、自治会の立ち上げが円滑に行われるよう、行政による自治会結成の取り組みを側面的にサポートしていく必要がある。また、災害公営住宅への入居や自立再建の進展後も、災害公営住宅と周辺地域のコミュニティ形成活動を継続的に実施することが求められる。今後は、行政や他の支援団体との連携の下で、災害公営住宅のコミュニティ形成を促進する交流会を継続しつつ、自治会の体制整備や事業計画の策定等のサポートを行う。加えて、地元関係機関とともに災害公営住宅の全入居者を歓迎する地域行事を実施し、併せて地域の一体感を醸成する盆踊り大会が次年度以降も継続されるよう、地元関係機関への働きかけを行う。



団体紹介

所在地 岩手県陸前高田市

団体の設立目的

東日本大震災の被災経験を市外の方や自分たちの子どもたちの世代に語り継いでいくために、津波到達点に桜を植樹し、被害を残し伝えることで風化させないことを目的に設立した。

主な活動

- ・岩手県陸前高田市市内における東日本大震災の津波の到達ライン(約170km)をつなぐ桜並木植樹事業
- ・津波のこわさ、備えの重要性を子孫の世代まで風化させないための普及・啓発事業
- ・桜並木をそれぞれの地元のまちづくり計画の一部として活用してもらえるよう提言する事業
- ・上記を達成するために必要な事業



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

東日本大震災の風化防止と災害への意識啓発のための桜の植樹事業

〔事業内容〕

岩手県陸前高田市の津波の最大到達地点への桜の植樹を通じ、風化防止によって次世代の命を守る。また同時に災害への意識啓発も目的とした植樹会を実施する。事業を通じて住民の震災への意識の再構築と、植樹参加者の災害への意識啓発および両者の絆の場の創出を行い、陸前高田市のまちづくりに寄与する。

〔事業目標〕

- ① 津波の最大到達地点への植樹活動、事業期間内300本の植樹
- ② 住民の参加80名
- ③ 植樹会への参加人数900名



2016春の植樹会



地元の小学生との植樹会

参加者・利用者の声



会社に植えていただいた到達点の桜を見てあの日を思い出し、勇気もらいながら頑張っております。これからも被災地の応援花をつなげていってほしいと思います。(柴田見さん／地域住民)

痛ましい姿の爪跡を遺すよりは、美しい桜並木で津波の凄まじさを後世に伝えたい!そんな思いで大切に植えさせていただいています。この桜が、未来の高田で皆に愛され、人々を救いますように! (佐藤美穂さん／植樹会参加者)



助成事業の成果

活動の認知度の広まりを感じる1年となった。昨年12月には、集落で桜の植樹を協議し、59本の植樹依頼をいただいた場所があった。加えて、今年3月には防災集団移転団地に入居する住民から植樹の依頼をいただき、住民の後押しの下、土地の所有者である市役所と調整し、植樹が実現した事例があった。このことは、本助成により広報活動が充実し、当団体の活動が浸透した成果と考えている。また、まとまった植樹要望を実現できる苗木費用の捻出が可能になったことも助成事業の成果としてあった。

助成事業の今後の展望・課題

植樹地確保数の増加と近隣住民へ理解を広げるという2点が課題として残った。

植樹地確保数の増加に関しては、事務局体制を効率化することで、各戸を訪問し地元住民と顔を合わせる時間を多く確保し、活動への理解を広げたい。

また、今年度の新たに出た課題として、土地所有者は植樹をしたという意思があるものの、近隣の住民が植樹に反対するというケースが数件あった。この課題に関しても、前述したように各戸で顔を合わせることで、地域単位で愛され、育てる桜になるよう地域との関係構築を進めていきたい。



団体紹介

所在地 岩手県盛岡市

団体の設立目的

東日本大震災で岩手県沿岸地域が甚大な被害を受けた状況に鑑み、被災地の市民等と協働し、被災者の救援、生活再建や被災地域の復興支援活動に取り組むことにより、安全で安心して暮らすことができる社会の形成に寄与する事を目的に設立した。

主な活動

- ・もりおか復興支援センター運営事業(盛岡市委託事業)
- ・岩手もりおか復興ステーション(首都圏での情報発信事業・コミュニティ再生事業)
- ・もりおか町家物語館「時空の商店街」運営事業(復興商品拡販事業)



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

地域と人をつなぐ祭り・民俗芸能

〔事業内容〕

沿岸被災地において地域社会を構成する重要なファクターである祭り・芸能は、震災により甚大な被害を受け消滅の危機にあるが、地域住民にとって心の支えであり復活および継承を強く希望している。そのため、首都圏との交流を通じた活動を行うことで地域の魅力を地域住民が再認識し分断されたコミュニティを再構築しながら祭り・芸能活動を活性化させる。

〔事業目標〕

- ① 首都圏での公演観覧者数：延べ1,000名(うち出身者300名)
ツアー参加者：延べ100名(同じ人が複数回参加し交流を深める)
- ② 鶴住居、吉里吉里地区のファン獲得：各50名
- ③ 道具や装束等の物資支援：5件



鶴住居虎舞・赤坂さん・地元住民による集合写真
(2016年8月町田公演にて)



大槌吉里吉里大神楽によるツアー参加者への
手ほどきの様子(2016年4月)

助成事業の成果

首都圏での公演を通して出演した郷土芸能団体はそれぞれの魅力を再認識し、活動の継続および活性に向けて一層邁進する様子が伺えた。また、実際に現地の祭りに首都圏の「ファン」たちが参加し交流を深めたことにより祭りの継続へも意欲的となった。

助成事業の今後の展望・課題

① 『鶴住居虎舞応援グループ』による活動の継続

来年の鶴住居祭りに向けて、首都圏在住の出身者やファンそして鶴住居在住のメンバーとともに「鶴住居虎舞応援グループ」を形成し活動を継続する。(首都圏イベントのコーディネートや練習開催等)

② ツアーにおける郷土芸能プログラムの醸成

三陸地域へのツアー実施の際には今回も好評だったツアー内での体験プログラムを含めるなど、郷土芸能プログラムを継続させる。特に釜石市はインバウンドの推進にも力を入れているため、外国人にも体験してもらおうとつないでいきたい。

参加者・利用者の声

廣田 一樹さん 鶴住居虎舞

この度は虎舞を首都圏で披露する貴重な機会をいただきありがとうございました。今回のイベントは「ラグビー × 虎舞(郷土芸能)」という新たな組み合わせでしたが、会場にいた皆様と一体となり盛り上がる事ができました。またこの公演がきっかけとなり町田市の消防団の方々と交流が生まれたことが嬉しかったです。



水島 寿人さん ツアー参加者

鶴住居青年会のご指導による虎舞の体験に加えて、三陸駒舎での馬との暮らしの体験を通して釜石地域の文化を深く学び、再訪してさらに知りたいと思いました。また、語り部・前川さんから伺った震災当時の鶴住居の状況は強く印象に残り、この地域の未来を見守りたいと思いました。地元のお母さんの手料理をいただくなど地域の方々との交流も楽しく、充実した3日間になりました。





団体紹介

所在地 福島県いわき市

団体の設立目的

東日本大震災で甚大な被害を受けた、豊間・薄磯・沼の内の3区域共同事業として、桜の植栽により復興の足跡を永く後世に残すことを目的に設立した。

主な活動

- ・3区域内の災害公営住宅敷地内外、防災緑地、区域内公園、高台造成地、学校、河川敷等における約3,000本の桜植栽の計画および実施



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

被災地復興に向け、さくら基金を活用した桜の植樹及び維持管理等に係る事業

〔事業内容〕

桜の植栽により復興の足跡を永く後世に残し、伝えることであるが、この活動および成果を住民の心のケアや心の復興につなげ、人々が集う憩いの場所を創る。また、桜の植栽・維持管理活動に必要な用具の整備および倉庫の設置、先進地視察研修による次世代のリーダー育成、植栽・維持管理組織の整備を行う。

〔事業目標〕

- ① 植栽・育成用具の整備(用具類の選定購入、物置の購入設置)
- ② 区域別次世代リーダーの発掘と育成(桜植栽先進地視察研修バスツアーの実施、3区推薦若手メンバーの参加)
- ③ 区域別植栽および育成管理組織の整備(地元会員・支援サポーターの募集、募集パンフレットの作成等)



第一回植樹祭で植栽した大漁桜
(10年物)の初めての開花

参加者・利用者の声

薄磯区 区長 鈴木幸長さん 副区長 坂本 武一さん
植栽用具および収納倉庫について、草刈機やスコップ・剪定鋏・鋸まで必要用具を取り揃えることができました。今後はこの用具類を使って桜を植栽し、人々が集う憩える場所がある街づくりをしたいと思います。



助成事業の成果

- ① 植栽・育成用具の整備としては、草刈機・スコップ・T型丸円ビ・ツルハシ・ショベル・バケツ・ジョーロ・剪定鋏・剪定鋸・万能鋏・平鋏に加えて収納物置を購入のうえ、3区指定場所に設置、収納し利用可能となった。
- ② 区域別次世代リーダーの発掘と育成については、3区毎にメンバーを選抜推薦し、先進地視察研修(埼玉県寄居町)を実施した。特に若手は視察先で積極的に交流を行い、今後にむけた植栽・育成管理組織の中心としての活躍が期待できた。
- ③ 区域別植栽および育成管理組織の整備については、チラシを作りサポーター等を募集する予定であったが、復興工事の大幅な遅れで、町会再編作業も遅れている。組織は地域ごとの町会を母体とし、サポーターが加わる形で計画していたが、植栽活動はその後となることから、今回募集チラシ作成は断念、今事業終了後の実施とした。

助成事業の今後の展望・課題

- ① 桜の本格的な植栽活動は復興工事の進捗状況によるが、第2回目の植樹祭開催を平成30年目標に諸々準備をしたい。町会再編も区検討委員会で検討中断の状態ではあるが、工事終了後を見通し、地区町会別に植栽・育成管理組織を編成、備えることとしたい。
- ② 植栽予定地は全て高台造成事業で切り出した岩石土(水成岩)を盛土として踏み固めてあり、土質が良くないため、植樹祭で災害公営住宅敷地内に植栽した桜は生育不良である。行政に土の入替、改良を要望した結果、配慮を得ることができた。
- ③ 2017年11月に一部完成する防災緑地に「どんぐりプロジェクト」によるどんぐり苗木の植樹祭が先行実施されることになっている。植栽方法等の参考としたい。
- ④ 震災から5年10か月が経過したことで、当会も高齢化が進み、若い力が必要となっている。今後の活動は若いメンバーと協働で推進し、この活動の成果を住民の心のケア、心の復興につなげ、人々が集う憩いの場所を創り、復興の足跡として永く後世に伝えたい。

安波津野神社例大祭 (あんばさま伝承祭り) 実行委員会

地域コミュニティ・
文化の再生事業

7



団体紹介

所在地 福島県新地町

団体の設立目的

新地町釣師浜漁港所屬船の豊漁ならびに海上安全を祈願するとともに、地域の発展および子孫へ伝統文化の継承のため「安波津野神社例大祭」を実施することを目的に設立した。

主な活動

- ・安波津野神社例大祭の企画、設営、運営
- ・その他団体の設立目的を達成するために必要な事項
- ・祭りの復活開催に向けた地域住民、関係団体等との事前協議、調整作業等の実施



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

安波津野神社例大祭用の神輿製作

〔事業内容〕

安波津野神社例大祭(あんばさま伝承祭り)は、江戸時代以降、関東から東北の太平洋沿岸部の漁村で広がった漁業者の守り神である「あんばさま信仰」の流れを汲む祭りで、新地町で漁業関係者が豊漁と海上安全を祈願し、5年に1度の11月3日に開催していたが、東日本大震災による津波で神社や神輿等が流失したため、2006年11月の開催を最後に、祭りは休止状態となっていた。

こうした中、2013年に神社が再建されたことに併せ、「安波津野神社例大祭(あんばさま伝承祭り)実行委員会」を設立し、2016年に流出した神輿の製作を含めて祭りを復活させることを目指す。

〔事業目標〕

- ① 安波津野神社例大祭(あんばさま伝承祭り)の復活および次世代への伝承
- ② 分断された地域コミュニティの再生
- ③ 新地町の復旧・復興に向けた間接的な支援



再建された安波津野神社



新地町役場での期間限定展示の様子

参加者・利用者の声

神輿を担いだ漁師の声

「2010年に漁師となってから5年越しに実現し、思いを込めて神輿を担ぎ、仲間同士の絆が強まりました。」「震災後、人が集まることがなかった浜に多くの一般の方が海を見に来る光景をみて感動しました。」「最後にこの祭りを見たのは中学生の時で、父が神輿を担ぐ姿を見ていました。多くの方々の支援を受け、神社の再建、神輿の製作等があり今回親子で参加できて本当に嬉しいです。」

来場者の声

「神輿が完成し、例大祭を復活することができて本当に良かったです。」「また賑わいが戻ってくるのが楽しみです。」

助成事業の成果

新地町の地域住民は、津波被害により近隣7ヶ所の集団移転地に移転しており、地域コミュニティの分断を余儀なくされていることに加え、漁業関係は、福島原発事故の影響で試験操業が続いている状況ではあるが、本助成により、予算面で課題となっていた神輿製作費用に目処がついたことから、2016年11月3日に10年ぶりで祭りを復活することができた。

沿岸部が工事中のため、規模を縮小しての開催となったが、予想を上回り、近隣に分散していた多くの地域住民が集まった。当実行委員会としても「祭りの復活」以外に掲げていた「地域コミュニティの再生」や「新地町の復旧・復興」に対して十分な成果を得ることができたと喜んでいる。

助成事業の今後の展望・課題

〈課題〉

新地町内の大勢の方に漁業の復興、地域の再建に向けて、来場を呼びかけたかったが、沿岸部の工事の影響もあり、規模を縮小しなければならなかったことが、とても残念であった。(手洗場、トイレ設備、建物等が未だ完成していない影響で、保健所からの指導により飲食、食品の提供が制限された。)

〈展望〉

2017年には漁業組合の建物が完成し、保健所からの指導が外れることに加え、沿岸部の工事もほぼ完了することから、今回を上回る規模で祭りを開催ができるものと確信している。

祭りを発展的かつ継続的に実施することにより、新地町の伝統や文化を守り、これからも地域コミュニティの再生や地域の復旧・復興に貢献して行きたい。



団体紹介

所在地 岩手県盛岡市

団体の設立目的

子どもと社会がつながり、自身の生き方や仕事を成長段階ごとに考えるキャリア教育支援事業を行うことで、個々が自立した社会の実現に寄与することを目的に設立した。

主な活動

- ・岩手県内の小中高校でのキャリア教育支援
- ・子どもの学びを応援する大人向け講座
- ・高校生大学生インターンの受け入れ



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

10年後の地域を担う中高生と大人の学びあいを活かした復興支援事業

〔事業内容〕

沿岸部・内陸部の小中高校の授業の中で、地域への愛着や誇り、日常を支える想い等をグループに分かれた小中高生が大人から聴き学び合う「未来パスポート」プログラムと中高生と大人が「故郷」等復興に関わるテーマを話し合う「かだる」プログラムを実施することにより、10年後の地域と自らの将来を考えるきっかけの場を創出していく。

〔事業目標〕

- ① 沿岸部・内陸部の小中高5校、対象生徒延べ500名～1,000名にキャリア教育支援プログラム「未来パスポート」「かだる」を実施する。
- ② 「未来パスポート」「かだる」プログラムや一般対象の講座に学生・大人延べ50～120名、教員50～100名が参加する。
- ③ 若者応援隊(事業推進を担う学生・若者ボランティア)6名～10名程度を育成し、プログラムの運営の強化を図る。



宮古北高「かだる」プログラムの様子



大槌高校「未来パスポート」プログラムの様子

参加者・利用者の声

橋本 久夫さん プログラム社会人講師・宮古市

初めての出会いでしたが、互いに目を見ながら話し合える事ができてとても良かったです。これからも沢山のことに触れ合いながら自分の夢を見つけてください。とても楽しい時間をありがとうございました！



助成事業の成果

宮古北高、大槌高校等6校において668名の小中高生を対象に、キャリア教育支援プログラムを実施した。プログラムや講座には、大人・学生計196名が参加し、小中高生と復興に向けて地域の未来や自身の将来を語り合った。さらに教員67名の参加を得て、プログラムの事前事後学習による効果が高まった。初めて参加する学生が安心して活動できるマニュアルも整備でき、多くの学生の活躍のおかげで、子どもと大人の学び合いによる復興支援に寄与することができた。

助成事業の今後の展望・課題

復興人材の育成には、長期スパンでの活動の継続が必要であり、活動を自立して継続していくための運営体制構築が大きな課題である。

今なお仮設住宅で暮らす中高生も多く、自宅再建の目処がたたない家庭も多い現状では、将来に不安を感じる中高生も少なくない。

5年後、10年後も地域の未来を担う中学生、高校生が自分自身の生き方や地域の未来について考えるきっかけを数多く持つように、行政や県市町村教委、企業をはじめとした関係機関への周知活動や自立化に向けての取り組みを行っていきたい。

特定非営利活動法人 やませデザイン会議

地域コミュニティ・
文化の再生事業

9



団体紹介

所在地 岩手県久慈市

団体の設立目的

久慈地域の豊かな将来をつくるためまちづくりの推進に関する事業を行い、魅力ある郷土づくりに寄与することを目的に設立した。

主な活動

- ・ 人的ネットワークの形成
- ・ 多様なセクターとの連携を通じた市民活動の促進
- ・ 行政との協働による「新しい公共」の実現



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

寄付が作る、新しい社会参加創造プロジェクト ～復興久慈モデルを目指して～

〔事業内容〕

にいがたNPO基金「ひとくちの寄付」を参考に、「ひとくちの寄付久慈版」(仮称)の創設を図るため、先進地研修や啓発講演会等を行いながら、プロジェクトチームによる寄付制度の設計等を行う。さらに、寄付制度を活用した寄付募集キャンペーンを行うことで、市民の新しい社会参加の仕組みの定着を目指す。

〔事業目標〕

- ① 「ひとくちの寄付久慈版」の創設
- ② 「ひとくちの寄付久慈版」を活用し活動が充実した市民団体の数(10団体)
- ③ 「ひとくちの寄付久慈版」を通し社会貢献活動に参加した市民の数(1,000口)



にいがたNPO基金の先進地研修(新潟県上越市)



じもっと基金キャッチフレーズ・ロゴの制作

助成事業の成果

「共感寄付」(ひとくちの寄付久慈版)「おまかせ寄付」「かんむり寄付」の3コースを要する「北三陸じもっと基金」の創設により、寄付による「新しい資金の流れの創造」と「市民が気軽に参加できる社会貢献活動の仕組み」の構築ができた。また、寄付募集キャンペーン「第1回共感寄付(期間4月29日～8月20日)にエントリーもしくはエントリーを考えた8団体に対し、アドバイスなどを行った結果、次回へ向けて体制を整えるということも含めて活動が充実した。最終的にエントリーした4団体には、914口、914,000円の寄付が集まり、多くの市民が寄付を通して社会貢献活動に参加した。

助成事業の今後の展望・課題

「北三陸じもっと基金」「共感寄付」とともに可能な限り周知活動を行ったが、充分ではなかったためさらなる定期的な周知活動が必要である。さらに寄付募集キャンペーンにエントリーした団体が少なかったことから、基金という仕組みの構築だけではなく、それを使う団体側の基盤強化策も課題と感じた。今後の展望としては、第1回共感寄付エントリー団体へのアフターフォローを随時実施し各団体の事業達成を目指す。「第2回共感寄付」や「おまかせ寄付」「かんむり寄付」の実施に向け継続的に取り組みを行い、地域を巻き込んだ市民活動の推進を図るとともに、地域や寄付者への報告を目的とした報告会を実施し「北三陸じもっと基金」「共感寄付」への理解を深め久慈地域での寄付文化の定着を図りたい。

参加者・利用者の声

私たちの活動のひとつに、地域の一人暮らしのお年寄りに絵手紙を差し上げる活動がありますが、私たちは絵手紙を送っているお年寄りにまだお会いしたことがありません。そこで私たちはお年寄りの皆さんとはじめての交流会を開きたいと思い、共感寄付に応募しました。集まった256,000円の寄付は、お年寄りに集まってもらったための交通費、会の食料代、そして今はまだ分からないお年寄りの問題を解決するために用いらさせていただきます。



第1回共感寄付エントリー団体
中学生ボランティア団体
Dreams プロローグ



団体紹介

所在地 宮城県石巻市

団体の設立目的

東日本大震災等の災害による被害の支援を目的に設立した。

主な活動

- ・公益目的事業：防災・地域づくり事業
(伝承・交流、安全・安心のまちづくり地域づくりサポート、被災者支援連携、防災教育)
- ・収益事業：IT事業



助成事業

(助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日)

石巻市復興祈念公園予定地における、 住民主体の震災伝承

〔事業内容〕

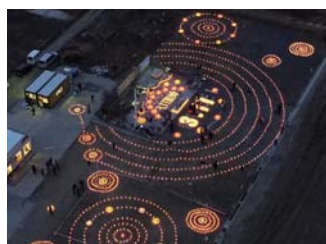
石巻市に設置される国営復興祈念公園の予定地にて、追悼・伝承スペースを設置し、来街者向けに情報発信を行うほか、地元中学生と継承型看板を製作・設置する。

〔事業目標〕

- ① 祈念公園が完成するまでの、来街者向け追悼・伝承スペースの運営
(情報センターの設置1件、来訪者1万名)
- ② 「がんばろう!石巻」看板の継承(継承型看板の製作1件)
- ③ 追悼・伝承スペースでの上映用動画作成(変わりゆく石巻を伝える動画2本)



門脇中学校での継承型看板の製作



「東日本大震災追悼 3.11のつどい」の空撮写真

参加者・利用者の声

「他施設に比べてここで一番必要な情報を知ることができました。」(市外からの来館者)

「皆さんに見ていただくために作ったはずなのに、休日のみの開館では勿体ない。(平日開館要請)」(観光ボランティア協会)

「自分が高校生になっても残るものに関われたことは嬉しいです。」(看板製作に参加した中学生)

「空撮動画のDVDが欲しいので販売していないのでしょうか。」(市内からの来館者)



助成事業の成果

追悼・伝承スペースには、設置以来12,626名が来訪したほか、石巻市南浜地区復興祈念公園有識者委員会において、「がんばろう!石巻」看板とともに祈念公園の「市民活動拠点」予定地への移転が決定し、国・県・市が設置予定の公園に向け公的な位置づけが確立された。

また、門脇中学校美術部の生徒たちによって2代目の看板が製作され、将来に渡し、定期的に若い世代が震災伝承に関わり続ける仕組みがスタートした。

さらに、空撮を活用して南浜つなぐ館で上映した動画は来訪者や工事関係者から高評価が得られ、国土交通省の紹介で「IG空間 EXPO 仙台」においてもドローン活用事例として上映された。

助成事業の今後の展望・課題

・南浜つなぐ館を復興祈念公園市民活動予定地に移設したことで、公園設置までの5年間は同じ場所で震災伝承活動を継続できる見通しとなった。

・「南浜つなぐ館」の認知度が高まったことで、来年度以降平日開館できるような委託事業について、石巻市と調整中。(被災2年以降、市の委託実績がない当団体にとっての画期的な変化)

・門脇中学生と製作した「がんばろう!石巻」看板が2代目として設置され、今後、地元中学生とともに1年ごとに塗り足しし、5年ごとに看板を作り直しながら、震災を継承する。

・本動画の実績を踏まえ、行政や民間企業から370万円を超える事業を受注した。当団体の貴重な自主財源にもなることから、今後も活動を継続したい。



団体紹介

所在地 宮城県利府町

団体の設立目的

障害福祉を軸に老人、児童を含めた地域との福祉を図ることを目的に設立した。

主な活動

- ・障害者総合支援法に基づく就労継続支援B型事業/就労移行支援事業/生活介護事業の展開
- ・障害者総合支援法に基づく共同生活援助（グループホーム）事業の展開
- ・児童福祉法に基づく障害児通所支援事業の展開



助成事業

（助成期間：2015年10月1日～2016年9月30日）

就労継続支援B型・就労移行支援「こうそう」

〔事業内容〕

障害を持つ成人の方に対して、利用者の特性を踏まえた上で、一般就労に向けて社会的自立を促す支援を提供するとともに、実践的で効果的な就労訓練の場を提供する。

就労継続支援B型事業においては、企業受託製品加工作業提供、就労移行支援事業においては、より専門性が高い自主制作作品製造および販売を提供する。

東日本大震災後、企業受託製品委託量が激減したことを受け、新たな事業として「生麺製造」における事業の拡大を図る。

〔事業目標〕

- ① 利用者への工賃を震災前の受産収入まで戻し、さらなる工賃増加を目指す。（被災前工賃9,846円）（2014年度工賃実績6,200円）（2016年度工賃予測8,100円）
- ② 麺製造工場の完成により、利用者のうち15名が麺製造就労訓練に携わる。（B型：27名中12名、就労移行：6名中3名）
- ③ 設置後、2年以内に就労移行支援事業の利用者3名の民間企業への就職を目指す。就労継続支援B型事業利用者に関しては、継続した施設内就労または一般就労の機会を提供する。

参加者・利用者の声



楽しいことは、自分が作った麺をお客さんに食べてもらえることです。（石山拓海／利用者）



麺の袋詰め作業が上手にできるようになったことです。（加藤真貴子／利用者）



製麺作業をもう少し覚えていきたい。家族が見学に来てくれるのが嬉しいです。（音羽光雄／利用者）

助成事業の成果

目標① 成果

- ・2015年度支給工賃実績は7,948円であり、目標に掲げた8,100円までには届かなかったが、前年度比+1,748円となった。

目標② 成果

- ・様々な角度から検証した結果、最終的に10名の参加となったが、広いスペースの中で、麺製造に加わる機会提供と、利用者の就労能力や技術力、生麺生産能力の底上げを図ることができた。

目標③ 成果

- ・就労実績「0」（2016年10月末現在）ではあるが、上記目標②と連動し、毎日継続した訓練を実施している。

助成事業の今後の展望・課題

一般企業へ、生麺の卸販売を行うために、現在も販促営業を行なっている。2016年10月末日現在、当月中は亙理町、山元町にて、11月上～中旬頃からは岩沼市、名取市における中小規模地域スーパーにて、産直販売所で卸販売を契約予定。また、みやぎ生活協同組合利府店より、11月中の店頭販売会への参加と、産直コーナーの一角を借りての試食提供販売を交渉中。加えて、石巻地域では、パスタ提供店舗に、パスタ麺の卸販売交渉中のほか、仙台市内飲食ラーメン提供店舗へは、生麺卸販売に向け新商品開発中。

本事業は、新しい福祉モデル事業として新たな一歩を踏み出したところであり、徐々にではあるが利用者や地域との交流も増えており、一般企業への販促展開も進めている。地域社会に貢献する新しい福祉モデル事業として、本事業がさらなる一歩を踏み出すには、現在取引をしている方々の信頼を裏切らぬよう、変わらぬ製品を作るとともに、常にお客様の立場に立ち、フットワーク軽く顧客ニーズに対応していくことが重要である。



第1回助成団体

■ 助成期間：2015年4月～2016年3月

■ 助成件数：20団体（一般公募枠：7団体 信用金庫推薦枠：13団体）

■ 助成金額：5,471万円（一般公募枠：2,494万円 信用金庫推薦枠：2,977万円）

■ 日常生活の再建事業

	団体名	事業名	所在地
①	特定非営利活動法人 居場所創造プロジェクト	居場所ハウス被災者復興応援事業	岩手県大船渡市
②	社会福祉法人 夢のみずうみ村 こども夢ハウスおおつち	大槌山菜収穫体験学習	岩手県大槌町
③	特定非営利活動法人 移動支援Rera	外出手段を持たない住民のための助け合い送迎と見守りネットワークづくり	宮城県石巻市
④	特定非営利活動法人 MMサポートセンター	スプリンクラーを設置し原発避難地区への一時立入時等の発達障害児の宿泊・訓練等を継続するための事業	宮城県名取市
⑤	特定非営利活動法人 TEDIC	宮城県石巻市における不登校児童・生徒のサポート事業	宮城県石巻市
⑥	特定非営利活動法人 リアスの森応援隊	気仙沼自伐林家養成・活動支援事業	宮城県気仙沼市
⑦	一般社団法人 気仙沼市住みよさ創造機構	「産学官金一体となった気仙沼市の住みよさの創造事業」の推進	宮城県気仙沼市
⑧	特定非営利活動法人 本宮いどばた会	ふくしまへそのまち親子の心も体も元気プロジェクト	福島県本宮市
⑨	社会福祉法人 いわき市社会福祉協議会	災害に負けない地域づくり	福島県いわき市
⑩	認定特定非営利活動法人 いわき自立生活センター	被災地における高齢者の生きがいづくりとコミュニティづくり支援事業	福島県いわき市

■ 地域コミュニティ・文化の再生事業

	団体名	事業名	所在地
⑪	釜石よいさ実行委員会	釜石よいさ開催事業	岩手県釜石市
⑫	特定非営利活動法人 みやっこベース	宮古市における若者定住促進プロジェクト	岩手県宮古市
⑬	宮古市末広町商店街振興組合	宮古まちなか賑わい創出事業	岩手県宮古市
⑭	特定非営利活動法人 いわてマリンフィールド	「ふるさとと海との共生」を進めるユニバーサルデザイン事業	岩手県宮古市
⑮	女川町獅子振り復興協議会	平成27年度“復活！獅子振り披露会”	宮城県女川町
⑯	特定非営利活動法人 東松島まちづくり応援団	中心市街地商店街と地域コミュニティへの活動支援	宮城県東松島市
⑰	特定非営利活動法人 夢未来南三陸	南三陸地域コミュニティで連携協力を推進するための基盤づくり事業	宮城県南三陸町
⑱	橋通りCOMMON運営協議会	石巻市中心市街地における橋通りCOMMON(まちの担い手育成と賑わい創出)プロジェクト	宮城県石巻市
⑲	相馬野馬追野馬懸保存伝承委員会	相馬野馬追祭礼用甲冑(御貸具足)の製作	福島県南相馬市
⑳	特定非営利活動法人 カルチャーネットワーク	福島県南地域における地域情報発信事業	福島県白河市

認定特定非営利活動法人 **日本NPoセンター** 『しんきんの絆』復興応援プロジェクト事務局

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル245

TEL : 03-3510-0855 / FAX : 03-3510-0856

E-Mail : shinkin-npo-ouen@jnpoc.ne.jp / URL : www.jnpoc.ne.jp